

1次産業

豊かな山並みの懷に抱かれ、清らかな水が流れる玖珠盆地。盆地特有の寒暖差が育むおいしい農畜産物が支えてきた玖珠町の1次産業にも、過疎化、高齢化の波が押し寄せている。キラリと光る産品をつくり、農業を次代につなごう。地域農業を牽引(けんいん)する若手リーダーたちが議論を交わした。



山浦早水の棚田

農家奥さんの会つくろう

発展のヒント探したい

農業者の平均年齢67歳

河辺 1次産業の分科会を始めます。まずは自己紹介をお願いします。

藤原 シイタケの業界に二十何年。おじさんから技術を教えてもらい、26歳の時に独立しました。今はハウスが150坪、14棟あります。菌床栽培で、工場で菌からつくっています。今年度中に法人を立ち上げる予定です。きょうは、違う畑の人の意見を聞ける機会と思って参加しました。

若手リーダー
シイタケ農家
藤原 星利 さん

秋吉 繁殖牛と野菜をつくっています。
穴井 福岡でコンピューター関連の仕事をしてたのですが、親と一緒に葉タバコをつくるようになって9年。露地栽培なので天候に左右されながら、何とかやっています。

原 玖珠町農林課で新規就農や農地中間管理事業、災害復旧などなんやらかんやら掛け持ちでやっています。実家では堆肥にこだわった土を使って米と野菜をつくっています。私はたまに手伝うくらいですが、行政の立場から発言させていただければと思います。
万 福岡に実家があります。会社に入ってから20年。転勤が多く、九州は宮崎と佐賀だけ行っていません。食べることを趣味としていて、単身赴任ですが料理をよくします。皆さんからいろいろ教えていただければと思います。

河辺 今回、玖珠町の1次産業の方々に集まっていたいただきましたが、それぞれ顔見知りみたいですね。つづられている産品が異なるので、玖珠町の発展につながる何かを探せたらと思います。私自身は紙面制作の部署でして、日田玖珠の地方面を組むこともありました。まず、玖珠町の1次産業について原さんから説明をお願いします。

原 玖珠町の標高は低い所で300位台、山に行くとも600位から高い所で1千位ほどあります。米が主で、施設園芸だとピーマン、トマト、白ネギなど。シイタケも多いです。生シイタケなど、県内でも頑張っている地域ですが高齢化しています。牛も盛んです。いずれにしても農業者が減って高齢化しています。平均年齢は67歳くらい。企業でいえば定年後の人が頑張っている状況で、若い人が少ないです。中山間地域で、なかなか広い面積をすることは難しい。それを地域で何とか守っているのが現状で、もうけにつながらないです。

河辺 高齢化の現状についてはあらためて聞きたいです。まず、産品の魅力を高めるための工夫などを聞かせてください。

藤原 きょうはうちの産品を持ってきました。今年の冬は、イオンさんと贈答用を出したんです。(箱入りなど数種類のシイタケを取り出して) いいもん、つづりました(笑)。箱入りのものは、構想から2年掛かっています。

フェイスブックで発信

河辺 秋吉さんはどんな取り組みを。
秋吉 うちの産品は9割が県外に出ていきます。県内に肥育農家が少ないので。人工授精をしています。牛も野菜も高齢化で生産者は減っていますが、市場ではそれなりの数の確保をしないと相手にしてもらえない。
河辺 安定供給が課題ですね。
藤原 安定供給のためには土地もいるしね。
秋吉 飼育は260日から300日。生き物なので事故も病気もあります。1頭が年に1頭しか生まないので、いい値の牛とそうでない牛の値段の差が激しいんです。

穴井 玖珠町の子牛は何牛になるの?
秋吉 いろいろです。県外から買いに来てくれる人もいますから。
秋吉 野菜は直販と、ナスは鹿児島の方に売っています。農協出荷です。直販は主にホウレンソウ。夏にもうかるものは何かと考えて取り組みました。直販は袋にフェイスブックのアドレスを入れて情報発信し、お客さんからどう評価されているのか見られるようにしました。

若手リーダー
葉タバコ・米農家
穴井 広高 さん

なつ星に提供する米

河辺 他の方もネットを利用されていますか。
藤原 うちはまだ。菌床栽培は生産をオンラインでやっているの、以前、情報を抜かれて利用されたこともあって。情報の中に飛び込みたくないというのがあります。

河辺 秋吉さんはどんな情報発信をされているんですか。
秋吉 どういう堆肥を作っているとか、いつ種をまくとかです。
河辺 日記のような感じですね。面白い。

秋吉 発信しだしてから返品は少ないかな。袋のURLは目印にもなるので、目につくのかもかもしれません。
原 秋吉さんのページで「きょうこれくらい取ります」とか見ると頑張ってるなと思います。

秋吉 最初は小遣い稼ぎのつもりで野菜をつづりだしたんですが面白くなって。ホウレンソウは高く売れるし。
万 高冷地のホウレンソウはいいんです。品種で値段も違うし、持ちも違います。直販なら単価が自分のところで何とかなります。自分の産品

がどこまで持つのか知っておくといいですね。
藤原 人がつくれないときに出せるのがいい。シイタケも施設園芸で菌床栽培が出てきました。新しいものをどんどん出せば魅力があるし、もっと上にと火が着いてくる。

穴井 タバコというのは変わった品目で、J.Tとの契約栽培なので市場に出ることはないんです。気を付けているのは安心安全。異物の混入がないように苦心しています。あとは米を栽培しています。玖珠のお米はおいしいといわれているんですが、小売店ではどうですか。

万 実は豪華列車「なつ星 in 九州」に提供している米があると知りませんでした。玖珠の米は県内の消費が圧倒的で、残りは首都圏に送ることが多いのが現状。消費者に向けて、何が違うのか細かく分析したものをアピールしていけば違ってくると思うんです。ベクトルを出すのは今から非常に重要な部分です。

アドバイザー
イオン九州光吉店農産主任
万 洋史 さん

土地によって違った味

河辺 玖珠の米はあまり流通しないのですか。
原 農協を通さず自分でさばく人が多くなっています。自分で売った方が高いんですね。「ひとめぼれ」という品種ですが、玖珠は寒暖の差が激しいのでおいしい。でも、量が取れないし、土地ごとによって味も違うので全体で売ると難しい部分もあります。

秋吉 うちの方は赤土なので、川沿いの所しか米はおいしくない。

河辺 味の評価はどのように決まるんですか。
穴井 日本穀物検定協会から食味ランキングが発表されています。九州は過去2回くらい特Aを出しましたが、あまり世に知られていない。

秋吉 牛もそうです。「豊後牛」という名前を

知らない人が多い。PRの仕方が悪いのか、していないのか。今は豊後牛何とか、もある。

河辺 「豊後玖珠牛」の表記もありますよね。
原 今は「玖珠牛」を使っていないです。牛に関しては各県でブランドがあって、一方で外国に太刀打ちできなくなっている。どうすればいいと思いますか。

秋吉 豊後牛でどんどん売ればいいと思う。大分の牛は鹿児島に行っていたりするの。

万 売り出すのは大事なことですな。

秋吉 自分はみんなより高い値段で出します。ほかの地域より色つやもいいし、締まっているので。ナスは部会がなくなったので1人で売りよります。

万 自分で(値段を)付けられた方が楽ですよ。
穴井 ナスの市場には入る余地があるの?
秋吉 ある。たまに問い合わせもある。

若手リーダー
玖珠町農林業振興課農政係主査
原 健太郎 さん

新品種の菌をつくりたい

河辺 課題解決に向けた取り組みがあれば教えてください。

穴井 うち基本的には葉タバコ1本なので、新規の品目に組みたいと思います。玖珠町で農業をやっている若者自体が少ない。みんなで集まって話をすれば新しい何かが出てきたりするから、玖珠町農業者家族会みたいなものをつくりたい。奥さんを巻き込んでしたいです。

秋吉 いいね。奥さんたちは外に出られる場がありません。

藤原 うちのかみさんとか、いいかも。たまには子どもから離れてあげたいし、それは夫から言わないと。

穴井 よそから来た奥さんには新たな組織があるといいた。農業だけ品目が違えば面識がないんです。

秋吉 繁殖の牛は頭数を増やして、種付けは血統を選ぶので、いい牛をつくりたい。おやじの代からしてきた牛を残していきたいです。これから5年、10年したら小売りの店舗数も減るでしょうから、野菜は売り先を確保せんといいかなと思います。まだ市場に入っていくのは無理なので、仲間をつくりたい。

藤原 法人化して誰かにつづってくれる人がいれば、一歩引いて、新しい品種の菌をつくりたいと思っています。既存の品種ではなく、昔いいた言われていた品種を合わせて新しいものを。新しい品種をつづって試験栽培して検査して、認められるのに約10年、お金も掛かるんです。園の世界の方に行きたい気持ちはありますが、事業をまずは安定させないと。どの業界も後継者がいないのが一番の問題点ですね。

河辺 従業員もいるんですか。
藤原 うちパートさんが8割なので、けっこう気楽に来てるんですね。
原 地元への雇用の促進にもいいですね。

もうかる成功例が必要

河辺 人が育つにはどのくらい必要ですか。

藤原 早くて3年、きつちり独り立ちさせようと思えば5年は掛かります。苦しい時期はあるので、もうける時にもうけないと利益はなくなります。厳しい業界ですが、どこも同じだと思います。

河辺 もうかる仕組みができれば回っていきそうです。

原 成功事例が玖珠町にはありません。藤原さんのような人が苦勞されてきて、一緒にやってくれと言っているの、若い就農者を確保した

いです。今、ピーマン部会と役場と振興局と高校が連携して、ファーマーズスクールの窓口をつくっているところ。募集があれば玖珠町の金の卵として育てたいですし、他の品目にも広げていければ。

穴井 営農組合が法人になれば農地を借りることが可能になるので、集落の農地を守る受け皿になります。

原 集落で新規就農者を受け入れますという意識ができればいいですね。

穴井 それはどこもウエルカムだとは思いますが…。でも、中山間地で開拓するより、整備した土地に行った方がいいのでは。

原 新規就農者のほとんどは施設栽培で大きな農地はいらないんですよ。可能性はあるかと。土や水の条件がマッチしているかに加えて、人間として受け入れられる土地があることが重要だと思います。

河辺 もうかる、という部分もあれば集まってくるのかな。

秋吉 もうかるか、つくるものが面白いのか、どっちかですね。無農業者もいいか悪いかわからんね。A品をつくろうと思えば、難しくなる。虫食いをしたら売れないし。直販に出して一番気を付けたのは見た目です。

万 無農業者といっても、検査時に出ないものと、全く農業を与えていないものの二つがあります。「無農業者」になっている状態のものがどういことかを情報発信することが大事だと思います。微生物が分解して農産物が検出されない状態で出荷される物も多いので。見える化や情報を出すから、きちんと理解することが大事です。

既存のものの壊していく

河辺 そろそろキーワードを決めていきたいです。

万 これまでの議論を通して、皆さん「サムシング・ニュー」というか、新しいことをしていきたいということを言われていました。既存のものを壊して新しい組織をつくらうという「交流のスクラップ・アンド・ビルド」や「情報の提案」などが上がりました。

穴井 サムシング・ニュー、共感します。常々変わっていかなくてはいけないと思っていました。そのためにはスクラップ・アンド・ビルドが必要ですね。

万 それぞれ力があるけれど、うまくかみ合っていないのかな。

穴井 人がいない分、密に付き合わないといけない部分がありますからね。既存のシステムを若者が担わされているけれど、もう無理なんです。

藤原 いろんな会に行かせてもらんだけど、「こうしたい」と未来のことを話す人は次の扉が開ける。農業っていろんな形がある。未来を切りひらいて、つないでくれたらいいな。一つのものをつくるにしても、見方を変えていくことを農業はどんどんしていくてはいけないと思うんです。

原 僕はとにかく新規就農者を確保したい。玖珠は人がどんどん減っている状況で、若い人が来れば活気が出るし、仕組みをしかりつづけていきたいな。
万 つなが、というキーワードは、仕事、人、未来にもかわって行くのでは。

秋吉 つなが、でいいのでは。
河辺 では、つなぐというキーワードでいきましょう。話は尽きませんが、これで1次産業分科会を終わりたいと思います。きょうはありがとうございました。

コーディネーター
大分合同新聞記者
河辺 敏和

はじめた人がある。

つづける人がある。

じぶんは、

こうしてふるがっていった。

ここによい世の中をめざした、JTの取り組み

■ あなたが気づけばマナーは変わる

たばこを吸われる方の喫煙マナー向上のために、「あなたが気づけばマナーは変わる。」というメッセージとともに、ポスター、喫煙所のステッカー等による呼びかけを行っています。

■ ひろえば街が好きになる運動

「ひろえ」という体験を通じ、「すてない」気持ちを持って。そんな願いから生まれたこの運動は、どなたでも参加できる清掃活動で、全国各地でこれまでに延べ160万人の方々にご参加いただいています。

■ 分煙コンサルティング

公共施設や商業施設、オフィス等、各施設の特徴や利用される方々のニーズに応じた「分煙コンサルティング」を実施。分煙方法についての知見提供・提案・アドバイスを行っています。

吸う人も
吸わない人も
ここによい世の中へ。